

平成25年度宮古群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

I 3月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平年並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成25年3月15日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	22.4	25.1	20.2	160.3	123.2

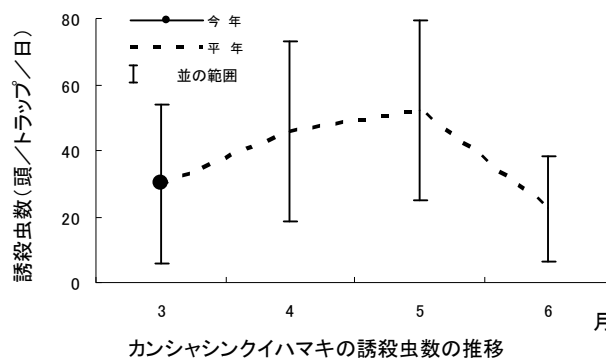
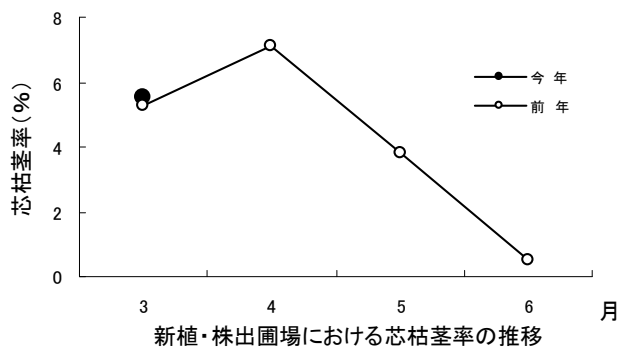
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 3月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ カンシャシクイハマキの防除対策

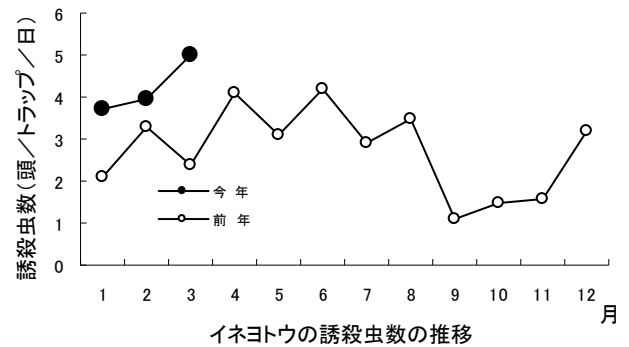
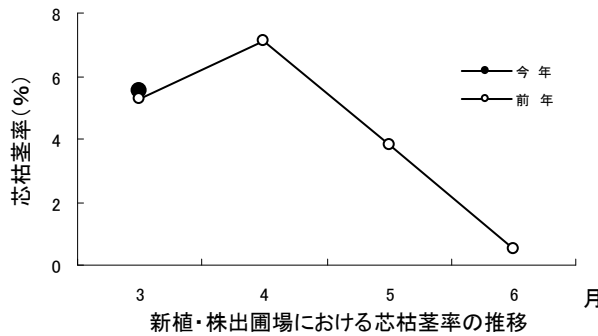
- a 3月中旬の調査の結果、株出圃場における芯枯茎率は、5.5%(前年5.3%)であった。
- b 3月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、30.1頭(前年26.6頭、平年29.9頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

- イネヨトウの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、株出圃場における芯枯茎率は、5.5%(前年5.3%)であった。
 - b 3月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は5.0頭(前年2.4頭)であった。
 - c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
 - b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第7号(平成25年3月15日付)。
- カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.1頭(前年2.4頭、平年36.6頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 2~3月の気温に基づく、3月19日時点での防除適期は、平年より13日程度早いと予想される。
 - c この時期に茎当たり虫数が20頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
 - d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう、風向きに注意する。

防除適期予想日(3月19日現在)

地域	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
宮古島	3月30日~4月12日	4月5日	4月18日	13日早い

2 マンゴー

- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 一部圃場で幼果に発生がみられた。
 - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見、早期防除に努める。
 - c 混合花の新葉や不用な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘葉する。
 - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - e 薬剤防除を行う際は、受粉昆虫に影響のないよう巣箱等を圃場外に移動する。

3 かぼちゃ

- モザイク病の防除対策
 - a 発病した株は早期に抜き取り、処分する。
 - b 媒介虫であるアブラムシ類は、発生源となる圃場内外の雑草の除去及び薬剤散布により防除する。
 - c 本病は汁液伝染するので、管理作業で使用したハサミなどの消毒、洗浄を行う。
- 細菌性病害の防除対策
 - a 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
 - b 今後の気象条件により、斑点細菌病や褐斑細菌病、葉柄腐敗症などの発生が助長される場合があるので、防風垣は収穫時まで残し、予防散布と初期防除に努める。

- うどんこ病の防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は50.0%(前年59.4%、例年65.1%)、発病度は13.2であった。
 - b 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
 - c 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので、防除を徹底する。

4 にかうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は4.2%(前年5.8%)であった。
 - b 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
 - c 除去した葉は圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
 - d 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

5 とうがん(施設)

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、葉あたり虫数は0.2頭(前年0.4頭)で、つる先あたり虫数は0.8頭(前年3.0頭)であった。
 - b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
 - c 持ち出し時に圃場内の虫の分布を広げてしまう危険があることから、除去した寄主植物はビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
 - d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成25年度八重山群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

I 4月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	40	30
平年並	30	30	30
低い(少ない)	20	30	40

(平成25年3月15日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.3	25.8	21.2	155.1	125.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 4月の発生予報および防除上の注意事項

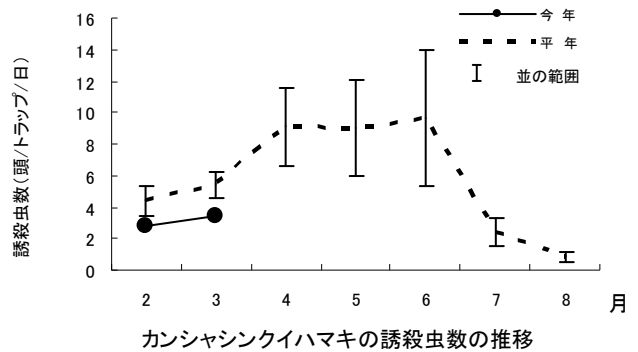
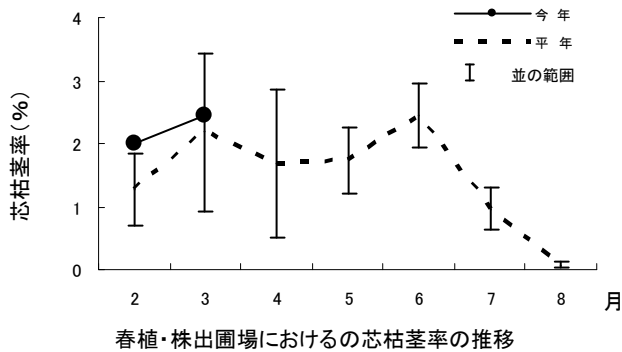
1 水稻(一期作)

- スクミリンゴガイの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、1㎡あたりの貝数は0.1頭未満(前年0.2頭、平年0.2頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 本種の被害は移植直後～2週間頃に集中する。
 - c 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
 - d 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
 - e 移植後2～3週間は浅水管理(1cm以下)に努める。
 - f 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。

2 さとうきび

○ カンシャシクイハマキ

- 3月中旬の調査の結果、新植春植圃場および株出圃場における芯枯茎率は2.5%(前年2.6%、平年2.2%)と平年並であった。
- 3月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.4頭(前年5.9頭、平年5.4頭)と平年よりやや少なかった。

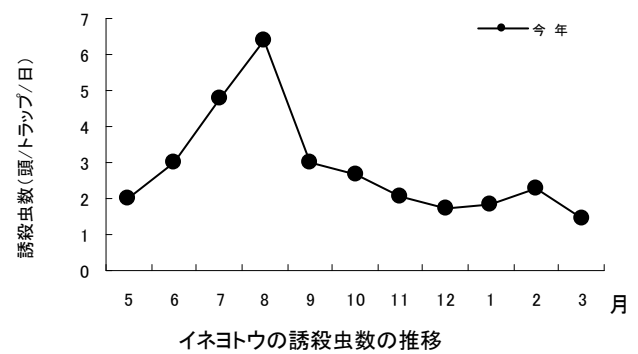
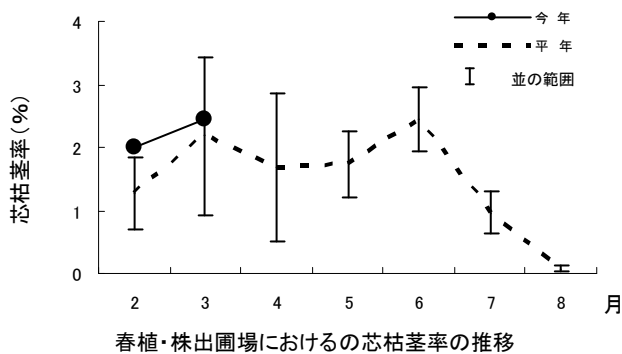


<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付時・株出管理時および生育初期の防除を徹底する。
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 植付時および株出管理時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月25日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- 3月中旬の調査の結果、新植春植圃場および株出圃場における芯枯茎率は2.5%(前年2.6%、平年2.2%)と平年並であった。
- 3月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.5頭であった。
- 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第7号(平成25年3月15日付)。

- カンショコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は3.3頭(前年3.7頭、平年25.0頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 2～3月の気温に基づく、3月18日時点で防除適期は、平年より石垣島及び周辺離島で9日、与那国島で7日程度早いと予想される。
 - c この時期に茎当たり虫数が20頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
 - d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月18日現在)

地域別	防 除 適 期	2.5齡期予想日		
		本年	平年	平年差
石垣島及び周辺離島	3月23日～4月6日	3月30日	4月8日	9日早い
与那国島	3月27日～4月10日	4月3日	4月10日	7日早い

3 マンゴー

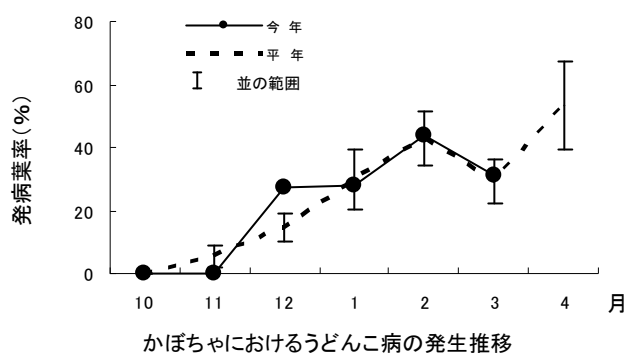
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0.4頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 混合花の新葉や不用な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘葉する。
 - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - d 薬剤防除を行う際は、受粉昆虫に影響のないよう巣箱等を圃場外に移動する。

4 かぼちゃ

(1) うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は31.0%(前年42.4%、平年29.5%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- b 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので、防除を徹底する。

コラム：4月に発生が予想される病害虫について

1 炭疽病の防除対策

本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけまでの防除対策を徹底しましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 葉、若い茎、新芽、花序、果実に発生する(図1)。
- (2) 未熟果で本病原菌は潜在感染(症状を示さない)して、収穫後、追熟とともに発生する。
- (3) 残渣上で長期間生存するため、伝染源になると考えられる。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- (2) 袋がけ前までに登録薬剤を組み合わせたスケジュール散布を行う(表1)。



図1 果実の病徴

(写真:澤岬哲也氏提供)

表1 登録薬剤を組み合わせた薬剤散布スケジュール(一部抜粋)

生育状況	結実期	果実肥大期		
		4月	5月	6月
散布月	3月	4月	5月	6月
薬剤	Kr	Kr	Kr	AZ

Kr:クレソキシムメチルDF(2000倍)

Az:アゾキシストロピン10F(1000倍)

2 ニガウリにおけるミナミキイロアザミウマの防除対策

今後の気温上昇に伴い、ニガウリの施設栽培において、ミナミキイロアザミウマ(図2)の発生が増加すると予想されます。収穫果実に奇形やケロイドを引き起こし(図3)品質を下げるので、本種の防除対策を徹底しましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 口針を植物に刺して吸汁したり、植物内に産卵して組織を傷つける。
- (2) 卵は植物の組織内に産み付けられるため、表面から観察することはできない。
- (3) 寄主範囲が広く、野菜のみならず雑草でも増殖することが知られている。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。



図2 ミナミキイロアザミウマの成虫



図3 ミナミキイロアザミウマによりケロイド状になった被害果(上:健全果、下:被害果)

コラム：4月に発生が予想される病害虫について（続き）

3 オクラにおけるトンネル被覆除去後のアブラムシ類の防除対策

春先に、アブラムシ有翅虫が多くみられます。露地栽培のオクラ圃場でも、トンネル被覆を除去するこの時期にアブラムシ類が飛来し、急激に増殖します。生育初期にアブラムシ類に多く寄生されると、オクラは生長が著しく阻害されることから、こまめに発生状況を確認し、早期防除するよう努めましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 葉裏、蕾、幼果など、あらゆる部位に寄生する(図4)。
- (2) 生長点付近に寄生すると、葉の奇形や生長抑制を引き起こす。
- (3) 多発すると排泄物によりすす病が誘発される。

2 防除上注意すべき事項

- (1) シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- (2) 圃場周辺の雑草は発生源となるので除草する。
- (3) 露地では天敵による密度抑制も期待できるので、殺虫剤の多用は避ける。



図4 オクラの葉裏にコロニーを形成するアブラムシ類

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157